

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	西中島小学校
学校長名	田原口 昭貞

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西中島小学校では、第6学年 8名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、評価観点である「知識・技能」問題の正答率が78.6%と全国に比べ、4.3%も高い結果となった。一方「思考・判断・表現」問題の正答率は50%と、全国に比べ13.8%低い結果となった。

算数科では「知識・技能」は60.3%と全国に比べ5.2%低く、「思考・判断・表現」においては44.9%と全国に比べ3.4%低い結果となった。

理科では、「知識・技能」は73.2%と全国に比べ17.9%高く、「思考・判断・表現」においても66.7%と全国に比べ8%高い結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

国語科では漢字や言語に関する正答率が高く、基礎的な知識が身についているといえる。しかし問題形式を見ると短答式は全国より高いものの、記述式となると全国平均を大きく下回り、「書くこと」において課題が見られた。

[算数]

全体的に全国平均と大きな差はなく、ICTを活用した視覚教材を取り入れた授業展開により図形領域でも平均的に正答することができている。算数科においても記述式の正答率が全国に比べ低く、文章で考えを表すことに課題がみられる。

[理科]

どの領域においても全国平均を上回り、記述式でも高い結果となった。これまでの理科教育の実践の成果と捉え、今後も継続していくことが大切である。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか。」は肯定的な回答が100%と全国を上回った。これまで高い結果が続いていること、学校、家庭、地域全体で子どもたちを認めながら育てていく風土が醸成されていることがわかる。また「いじめはどんな理由があってもいいことだと思いますか。」も肯定的な回答が100%と、これまでのいじめは絶対に許さないという「大阪市いじめ対策基本方針」をもとにした取り組みの成果が見られた。

一方「学校に行くのは楽しいと思いますか。」は肯定的な回答が71.5%と全国に比べ低く、これまでの授業や取り組みがどうであったか、考察、改善していく必要があると思われる。

今後の取組(アクションプラン)

・大阪市の「学力向上支援チーム事業」をもとに、授業改善や、児童への支援充実をすすめていく。

・大阪市が推進する「総合的読解力育成カリキュラム」を活用し、横断的で探究的な学習をすすめていく。